

# ばちゅう 馬冑

## 馬冑とは…

馬冑は馬の頭を敵の攻撃から守るための馬具です。

船原古墳と近い時期のものは、現在の韓国から中国の遼寧省・吉林省にかけて見つかっており、特に韓国の南東部に多く見られます。しかし、日本の古墳時代の遺跡からは、和歌山県の大谷古墳と埼玉県の埼玉将軍山古墳、そして船原古墳の3例しかありません。このことから、今回の発見がいかに重要なものであるかわかります。

## 船原古墳の馬冑の基本情報

船原古墳の馬冑は1号土坑から見つかっています。発見時はバラバラの状態でしたが、九州歴史資料館での修復作業により、元の姿が明らかになりました。

馬冑は、馬の顔を覆う「面覆部」、頭の上に立てた「庇部」、顔の横にくる「頬当部」の三つの部分から成っています。



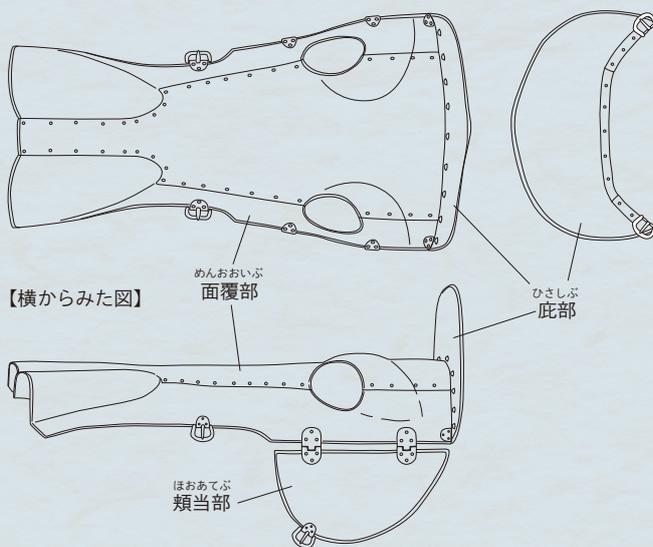
船原古墳の馬冑



発見されたときの船原古墳の馬冑(丸印の中)

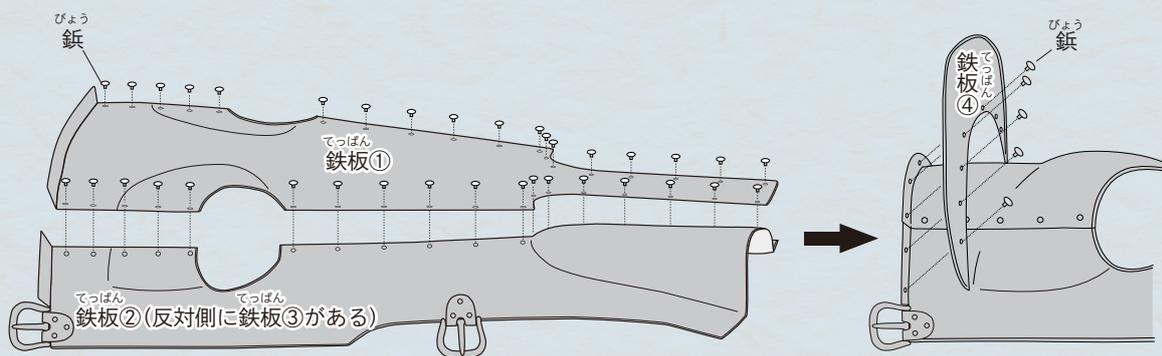
【上からみた図】

【後ろからみた図】



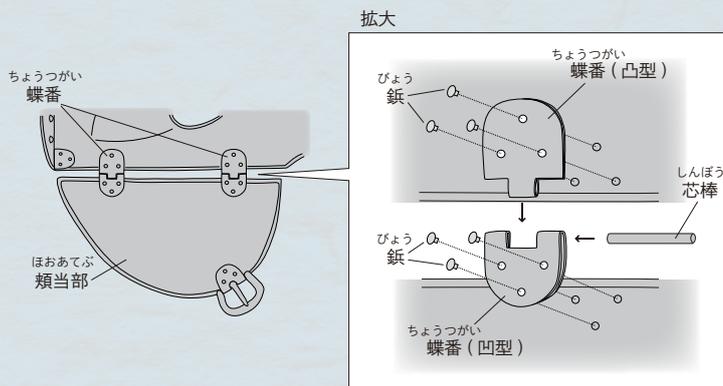
船原古墳出土馬冑と各部名称

面覆部は3枚の鉄板を重ねて（下図の鉄板①～③）、その上に底部の鉄板（下図の鉄板④）を組み合わせて**びょう**で留めています。鉄は国内の他の遺跡の馬青よりも広い**かんかく**で打たれており、その結果、組み立てに**びょう**の数は少なく抑えられています。



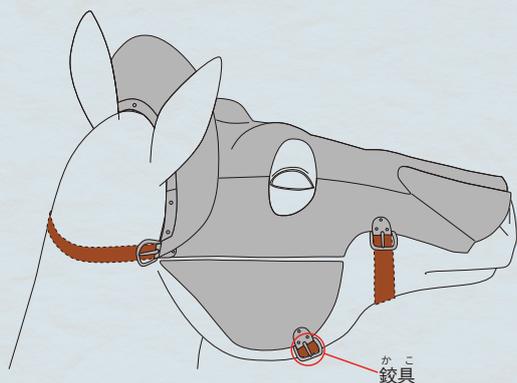
面覆部と底部の構造模式図

頬当部は半円形の鉄板で、左右に1枚ずつあり、それぞれ二つの**ちょうつがい**で面覆部にぶら下げて動くようになっています。



頬当部を取り付ける蝶番の構造模式図

面覆部、底部、頬当部にはそれぞれ左右1か所ずつ、合計6か所に**かぎ**（ベルトの留め具のような部品）が取り付けられています。鉸具には**かわおび**などが通され、左の図のように馬青を固定していたと考えられます。



鉸具にベルトを通して馬に装着したときの想定図

### 船原古墳の馬青の特徴

船原古墳の馬青は、馬が目を出す孔の後ろの部分や鼻先の部分を内側から打ち出して膨らませています。

馬の顔に沿った加工、そして少ない**びょう**で組み立てられている点などから、いかに高度な鉄板加工技術が用いられているかがうかがえます。



船原古墳の馬青の鼻先や目の上部の膨らみ